

久留米工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	政治・経済	
科目基礎情報							
科目番号	2E03			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電気電子工学科			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	『政治・経済資料 2 0 1 8』東京法令出版（教科書）						
担当教員	松下 愛						
到達目標							
①民主主義の基本原則について理解できるようになる。 ②日本国憲法の基本原則、日本の政治機構などについて理解する。 ③現代経済のしくみを基礎的な経済理論の観点から理解し、国民経済の動向および、政府の役割と日本経済が抱える課題を考える力をつける。 ④自らの意見を理論的に説明する能力を身につける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	民主主義の本質を理解したうえで自らの意見を的確に述べることができる。			民主主義の本質を理解できる。		民主主義を構成する語彙を理解できていない。	
評価項目2	日本国憲法の成り立ちと本質を理解で、自らの意見を述べることができる。			日本国憲法の基本原則を理解できる。		日本国憲法の基本原則を理解できない。	
評価項目3	経済学の基本的な知識をいかして自らの経済状況について意見を論述できる。			経済学の基本的な知識を理解している。		経済学の基本的な知識を理解できていない。	
評価項目4	戦後日本経済の歩みを理解し、今後の経済状況について自らの意見を表明できる。			戦後日本経済の歩みを理解しできる。		戦後日本経済の歩みを理解しできない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	広い視野を持ち、民主主義の本質への理解を深め、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解し、公正な判断力の涵養を目指します。前期では政治分野、後期では経済学分野を取り扱い、現代社会における政治、経済問題について主体的に考えられるようになりましょう。						
授業の進め方・方法	基本的には座学中心ですが、毎回授業終了時に小テストを実施します。小テストは皆さんの理解度の確認も兼ねていますので、次回の授業時に特に良かった答案を紹介しながら復習を兼ねて解説を行うようにします。						
注意点	成績評価は前期後期各試験の点数を平均して算出する。60点以上が合格とする。 なお追再試は行うこともある。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	イントロダクション				
		2週	国家と法			主権を理解する	
		3週	民主主義の成立			民主主義の歴史を理解する	
		4週	社会契約説とは			ロック、ルソーの社会契約論について理解を深める	
		5週	世界のおもな政治体制			議院内閣制、大統領制などの政治制度の概要を理解する	
		6週	日本国憲法の制定			大日本帝国憲法の概要および日本国憲法成立までの過程を理解する	
		7週	日本国憲法の基本原則			日本国憲法の三大原則を理解する	
		8週	国民主権			国民主権とはなにかについて説明できる	
	2ndQ	9週	平和主義			憲法 9 条および前文について理解を深める	
		10週	基本的人権①			平等権、自由権を具体的な判例に基づいて理解する	
		11週	基本的人権②			社会権、参政権、請求権、新たな人権を具体的な判例に基づいて理解する	
		12週	国会と立法			国会の役割について理解する	
		13週	内閣と行政			内閣の役割について理解する	
		14週	裁判所と司法			裁判所の役割について理解する	
		15週	まとめ 政治分野の復習				
		16週	前期試験				
後期	3rdQ	1週	経済とは			経済について説明できる	
		2週	資本主義と社会主義			社会主義と資本主義経済の違いについて説明できる	
		3週	市場経済			市場の機能とその限界について理解できる	
		4週	経済成長と景気			経済成長率について理解できる	
		5週	資本循環と金融			金融の働きと機能について理解できる	
		6週	政府の経済活動と財政			財政学の基本的な概念を理解し、日本の財政状況について理解できる	
		7週	財政赤字と税制改革			同上	
		8週	戦後日本経済の展開			戦後日本経済の歩みを説明できる	
	4thQ	9週	日本経済の現状と課題			日本経済の現状を把握できる	
		10週	労働経済			労働経済の基本概念を理解できる	
		11週	社会保障			日本の社会保障について説明できる	

		12週	社会福祉	高齢化社会について自らの意見を説明できる
		13週	国際経済	グローバリゼーションとはなにか、説明できる
		14週	貿易と国際収支	比較優位説を理解できる
		15週	まとめ 経済分野の復習	
		16週	後期試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3
		公民的分野		人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3
				自分が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3
		現代社会の考察		現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3
	工学基礎	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	物理、化学、情報、工学における基礎的な原理や現象を明らかにするための実験手法、実験手順について説明できる。	3
				実験装置や測定器の操作、及び実験器具・試薬・材料の正しい取扱を身に付け、安全に実験できる。	3
				実験データの分析、誤差解析、有効桁数の評価、整理の仕方、考察の論理性に配慮して実践できる。	3
				実験テーマの目的に沿って実験・測定結果の妥当性など実験データについて論理的な考察ができる。	3
専門的能力	分野別の工学実験・実習能力	電気・電子系分野【実験・実習能力】	電気・電子系【実験実習】	電圧・電流・電力などの電気諸量の測定が実践できる。	3
				抵抗・インピーダンスの測定が実践できる。	2
				オシロスコープを用いて実際の波形観測が実施できる。	3
				電気・電子系の実験を安全に行うための基本知識を習得する。	2
				増幅回路等(トランジスタ、オペアンプ)の動作に関する実験結果を考察できる。	3
				論理回路の動作について実験結果を考察できる。	3
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3
				複数の情報を整理・構造化できる。	3

				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0